

令和5年度 高山市立国府学校 学校経営の重点及び自己評価 校長 脇田 誠

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	育てたい資質・能力	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点
方針・重点 ・挑戦し続けるたくましさの育成 ・郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①②③④ 深い学びを「地域社会への発信」へ向ける授業の挑戦 一人ひとりの居場所をつくる	人間性豊かで活力ある国中生	未来を生き抜くたくましさ	確かな学力を育成する学校	①	1) 仲間との協働、教師との対話、教科書等を手掛かりに考えることを通して自分の考えが深まったと感じる生徒の割合を80%にする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一単位授業における興味関心をもたせる導入の工夫、生徒一人一人に応じた多様な学び方(一人学び、仲間学び、ICT活用等)の取り入れにより、授業に意欲的な生徒が増加。</li> <li>・「粘り強さ」にやや弱さ。【要因】各教科での「粘り強さ」の視点が、生徒・教師共に曖昧。事後の自己評価、他者評価が不十分。</li> <li>(改善点)</li> <li>・「生徒が進め、自ら高める追究＝学びの挑戦」を「粘り強さ(積極的、進んで)」と「学習の調整力(見通し、既習を生かす)」の2点でとらえ、明確化。ICTを活用し、効果的・効率的に評価。</li> <li>・テスト週間以外は、宿題以外あまり行っていない。【要因】計画立案力が乏しい。授業と家庭学習をつなぐ仕組みがない。</li> <li>(改善点)</li> <li>・授業終末に生徒自身が理解度を評価。</li> <li>・放課後15分間で家庭学習計画(本日の授業の不明点を家庭学習の中心として)</li> </ul>
					①	2) ICT機器を活用し、資料収集や、話の組み立てなど、聞き手の心に届く工夫をして発表する生徒を75%にする。	A	
					①	1) 授業が楽しいと感じる生徒の割合を80%にする。	A	
					①	あらゆる場で「生徒が進め、自らを高める追究＝学びの挑戦」の継続	B	
					①	2) 課題解決に向けて、自分で考え、粘り強く取り組むことに挑戦していると答える生徒を80%にする。	B	
					①	1) 家庭での学習方法を具体的に個別に指導し、保護者と連携した見届けを行い、「自ら進んで家庭学習に挑戦している」と答える生徒を80%にする。	B	
				自己肯定感と表出力を高める学校	②④	1) 「先生に話やすくなった」「話しやすい先生が増えた」と感じる生徒の割合を70%にする。	A	
					②④	2) 「いろいろな先生が自分の変化に気づいてくれたり、褒めたりしてくれるようになった」と感じる生徒の割合を80%にする。	A	
					②	1) 学級の課題解決に向けて話し合う活動の積み上げを通して、「自分たちの学級は自分たちで創り上げようと思うようになった」と感じる生徒の割合を70%にする。	A	
						2) 生徒会等でのコミュニケーション活動の工夫と認め合い活動の活性化を通して「学校生活向上のために自分の考えを学級・学年や全校等に表出できた」と感じる生徒の割合を80%にする。	A	
					①③	1) 岐阜県、高山市出身で中央で活躍する人の勤労観についての講演から「研修によって将来の職業生活との関連の中で今の学習の必要性や大切さが理解できた」と感じる生徒の割合を80%にする。	A	
						2) 地元高山市と国府町の伝統文化やよさを、他地域と関連付けて学ぶ場の設定	A	
3) 地域と協働する活動の実施	A							

学校運営協議会における主な評価内容

・学校が楽しい、挑戦している、先生に褒めてもらえると感じている生徒の割合9割。この成果の要因として「居場所づくり」「学年担任制」「自己決定の場の確保」がある。生徒に付きたい力が明確になり、めざす方向性が、教職員、生徒、保護者が合致している。  
 ・生徒が安心して学校生活を送るためには、生徒にとって相談しやすい教職員がどれだけ学校にいるかが重要。そのためにも、教職員のゆとりが大切。思い切って「これはやめよう」と決断して働き方改革を進めてほしい。